

平成22年度 第3回歯学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時 : 平成22年12月6日(月) 15:00~17:00

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 神原委員長、佐藤委員、新井委員、岡本委員
奥村アドバイザー、藤井アドバイザー、森實アドバイザー
(事務局 井端事務局長、森下主幹、平田職員)

IV. 議事概要

1. 学士力(コアカリ)実現に必要な ICT 活用の具体的な検討について

- 資料に基づいて、委員から「携帯アプリによる動画教材の公開」について報告があった。動画教材の公開によって、学生の予習と復習に活用ができること、登院実習で経験できないような症例を学ぶことができること、公開しておくことによって基礎形の講義で活用して臨場感のある目的を明示した講義や実習が可能となること、といった利点があることが提案された。一方問題点として、動画を携帯電話に配信するためのシステムの動作速度や動画の記録・編集の技能が必要なこと、すべての臨床的な状況を動画として記録することは難しいこと、手技に術者間や大学間での不一致がある可能性があること、被写体となる患者さんからの許諾の問題、などが報告された。
- 続いて、「PBL のプロセスを画像化による振り返り教材の開発と共有」の報告と各大学の PBL の現状について意見があった。
- 私立大学情報教育協会として、患者さんの立場に立った観点から、10 年先の歯科医師に何が必要なのか、を念頭においた新しい歯科医学教育を打ち出すべく議論を進めることが重要との意見があり、委員会の方向性が再確認された。
- また、卒後教育の重要性とともに他の専門家に意見を求める姿勢の重要性が指摘された。
- そのためには現状を把握することが重要であること、たとえば医学領域では現在、ニーズのアセスメントが課題となっているので参考とすべきであるとの議論があった。
- 委員長から、患者層を3つの世代、すなわち(1)齲蝕が極めて少なくなっている子供の世代、(2)しか疾患の変動が少ない成人世代、(3)残存歯数が少なくなっている高齢者世代、にわけて考えることが提案された。
- 現状の教育には、社会の経済的な状況、海外から医学教育標準化の圧力、学生の質が低下している問題、大学内でのさまざまな改革とそれにとまなう多くの問題点があることが議論された。それらの問題点について、海外の例を参考に多面的に議論が深められた。

2. 次回までの課題

- 引き続き、Competency of New Japanese Dentist の作成作業を継続することとなった。
- 1月中旬までに、委員長から予防歯科を中心課題とした事業モデルを2~3提案し、委員に配布して意見を募ることとなった。

V. 次回委員会

日 時: 平成23年2月15日(火) 16:00~18:00

場 所: 私立大学情報教育協会事務局